



次世代育力強化のための新規FD研修を開始しました

千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター長 **和住 淑子**



あらゆる分野でこれまでのしくみや制度を覆すような深淵かつ広域な変化に直面する中、教育においても、分野を問わず、教育の目標や方法を根本的に見直す動きが始まっています。看護をとりまくヘルスケア分野においても、次々にイノベーションが生まれ、医療・介護をとりまく環境は激変しています。

新たな看護の役割に即した看護学教育の変革をさらに推進するため、当センターでは、今年度より「次世代育力強化のための看護系大学FD推進拠点」として看護系大学教員の能力開発を体系的に目指す新たな研修事業を開始しました。

この事業は、環境変化に創造的に適応する看護職育成を実現する先進的・体系的FDプログラムの提供と大学間共同利用システム構築を通して、看護系大学の次世代育力（①環境変化を分析する力、②環境変化に適応する力、③教育内容を変革する力、④主体的学びを促進する力、の4つの力が統合された力）を強化することを目的としています。

研修プログラムは、当センターの看護学分野唯一の文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点としての実績と資源を最大限に活用して開発しました。看護系大学教員を目指す大学院生から管理的立場にある看護系大学教員まで、あらゆる立場にある看護系大学教員のFDニーズに応える5段階のレベル別体系的プログラムとなっています。各プログラムはそれぞれ独立しておりますが、共通のコンセプトによって組み立てられておりますので、各大学のニーズに応じて、組み合わせてご利用いただくことが可能です。また、ご利用に関するご相談と各大学が独自に行うFD相談については、当センター教員がFD改善コンサルテーションを随時実施しておりますので、どうぞご活用ください。

この時代の変革期に、誰もが自らの力を発揮して、健康で幸せな生活を謳歌できる未来を夢見て、環境変化に創造的に適応し、臆せず、柔軟な発想で、新たな看護の役割を果たすことのできる次世代の看護職の育成に、皆様とともに歩んで行きたいと思ひます。この目的に向かって皆様と共創できることを心から楽しみにしております。

当センターでは、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善のため、ホームページでの情報発信はもちろんのこと、個別指導や情報交換できるよう、下記のようなコンテンツ等を配信しております。

- ・FDマザーマップ・支援データベース（看護系大学のFDを支援するFDプランニング支援データベース）
- ・組織変革型看護職育成支援データベース（教育－研究－実践をつなぐデータベース）
- ・課題解決プロセスデータベース

また、メーリングリストを改め「拠点インフォメーションメール」とし、看護系大学等との連携・協働のための情報発信力向上に努めております。受け付けは随時行っておりますので、担当窓口部署、窓口担当者名を記入の上、件名を「(〇〇大学) 拠点インフォメーションメール登録申し込み」とし、kango-cqi@chiba-u.jpまでお申し込みください。



<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点

当センターでは、昨年度から、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」事業に取り組んでいます。今年度は、この事業の一環として、新規に以下のレベル別研修をスタートさせました。具体的なプログラムは以下のようになっています。

- ①レベルⅠ研修 自己の可能性の扉を開く大学院生向けプレFD（動画視聴、オンライングループ演習）
- ②レベルⅡ研修 個人と組織をつなぐ新任看護系大学教員向けFD（動画視聴、オンライングループ演習、個人ワーク）
- ③レベルⅢ研修 次世代育成力強化の方向性共有（講演動画視聴、個人ワーク）
- ④レベルⅣ研修 教員自らが変革をおこそう！-次世代育成力強化に向けたテーマ別教授能力開発-（動画視聴、個人ワーク、オンライングループ演習）
- ⑤レベルⅤ研修 組織全体の次世代育成力を強化するFD改革（動画視聴、オンライングループ演習）

お蔭で、今年度の新規研修は、のべ1,000名を超える看護系大学教員・看護系大学教員を目指す大学院生の皆様にご受講いただきました。受講者の皆様にご協力いただき、研修効果測定事業にも取り組んでおります。これらの成果を踏まえ、次年度には、さらにバージョンアップした研修を計画しております。皆様のご受講をお待ちしております。

次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点

看護系大学教員の次世代育成力を重層的に強化する先進的・体系的FDプログラム

医療・介護分野の急激なテクノロジーの進歩 ➡ 多様な力をテクノロジーと結び付け個人・社会のwell-beingを実現する看護の新たな役割



千葉大学看護学研究院および附属看護実践・教育・研究共創センターの資源と実績

2020- 「"Society5.0看護"創出拠点」⇒看護職の新たな役割発揮の方向性をFD研修により全国の看護系大学と共有
 2016- 「看護学教育の継続的質改善(CQI)モデルの開発と活用促進」⇒各看護系大学の教育質改善のFD 次世代育成力強化に向けた自大学内FD充実
 2011- 「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」⇒FDマザーマップの公表・利用FD デジタル教材・看護AI開発に必要な人的・物的環境
 2010- 「教育-研究-実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」⇒医療現場との連携実績の向上
 1982- センター設置全国向け研修開始
 1975- 国立大学唯一の看護学部 3,600名の卒業生を輩出 多くが全国の大学教員 先進的教育・研究により我が国の看護学教育を先導、看護先進・体系的FDの実施

レベル別FD研修

レベルⅠ研修「自己の可能性の扉を開く大学院生向けブレFD」

レベルⅠ研修は、自己の中にある次世代育成力を再発見し、看護系大学教員としての可能性の扉を開くことを目的としています。受講対象者は、看護系大学の教員を志す大学院生や大学院修了者などであり、次世代育成能力強化の必要性や実習指導における発想の転換などについての動画4編の視聴とオンライングループ演習を通して、新たな時代を生きる看護学生を育てる教育者としての視点の獲得を目指す研修です。

今年度は、全国から70名の応募がありました。1回以上の参加を必須とする全3回のオンライングループ演習では、4名前後で構成されるグループごとに、実習における困難事例を教育のチャンスに変えるアイデアを自由な発想のもと話し合いました。演習の成果には、「困難を学生の能力を伸ばすための機会に変換できる柔軟な力が自分にあることが分かった」、「学生は何かをしてあげる存在ではなく主体的に行動できる存在である」と信じることが重要だと気づいた」など、受講生の新たな発見が報告されました。今後は、演習の成果や受講者の事前・事後アンケートに基づき研修を評価し、達成できたことと課題を明確にし、次年度以降の研修に備えます。

(レベルⅠ研修担当者：植田満美子)

レベルⅡ研修「個人と組織をつなぐ新任看護系大学教員向けFD」

レベルⅡ研修では、看護系大学教員としての基礎的知識を学び、自大学での役割を自立して果たすことができる能力を身につけることを目的とし、受講対象者を看護系大学に着任した3年未満の教員としました。

研修は全てオンラインで実施し、オンデマンド講義の視聴と個人ワーク、グループミーティングへの参加から構成されています。

今年度は、全国から82名にご参加いただき、6回に分けて行われたグループミーティングでは、地域や設置主体の異なる大学教員5名前後で、自大学の状況の紹介や他大学の状況を知ること、自身の強みやチャレンジしてみたいこと、自大学における自身の役割について検討しあいました。メンバーから他大学の状況を知ること、自大学や自分自身の特徴等に改めて気づくことも多く、大学、学生、自分自身の三方への理解を深めることができました。

今後は研修成果やアンケートの結果をもとに、次年度の研修に向けて、さらなる次世代育成能力を向上を目指していききたいと思います。

(レベルⅡ研修担当者：飯野理恵)

レベルⅢ研修「次世代育成能力強化の方向性共有」

レベルⅢ研修は、「イノベーションが求められる課題を見出し、デジタルツールを使った解決の糸口を探ろう一次世代育成能力強化に向けたデジタルツールの活用」を目指して行いました。

この研修では、看護系大学教員を中心に臨床で学生を教育している看護師を対象に、教育改革の動向や、生成AIを活用した教育イノベーションに関する知識の習得やデジタルツールの活用方法を学ぶことができるように企画し、現在500名以上の参加者から応募がありました。

研修の主な目的は以下の通りです。

1. 医療・介護分野の環境変化と看護の新たな役割、教育改革の動向の理解
2. 看護教育・研究におけるイノベーション創造のための生成AI活用の基礎知識習得
3. 教育上の課題を生成AIを用いて安全に分析・解決する方法の学習

この研修は、急速に変化する医療環境に対応し、看護教育の質を向上させるための重要な取り組みとなりました。生成AIの安全な活用方法や、教育現場での具体的な応用例について学ぶことで、参加者は今後の看護教育におけるイノベーションの創出に向けた知識とスキルを獲得していることが事後評価で報告されています。

特に、ChatGPTなどの生成AIツールの安全かつ効果的な活用方法に焦点が当てられ、参加者は、自身の組織内で直面している課題解決のための具体的な方法を学びんでいることがレスポンスシートに回答されています。

(レベルⅢ研修担当者：眞嶋朋子)

レベルⅣ研修「次世代育成能力強化に向けたテーマ別教授能力開発」

レベルⅣ研修では、学生の「変革を起こすコンピテンシー」の観点から向上を目指したい日々の教授活動について検討し、自立した教員の次世代育成能力を強化することを目的にしています。すべてオンラインで実施し、参加者全員が、レベル共通の動画の他、関心に合わせて複数の動画から選択してオンデマンド視聴を行います。参加者は、動画視聴から多様な学び（教員が捉えている「主体的」と学生が発揮する「主体性」にはギャップがある、主体的な学びを実現するためにはまずは教員側が環境調整をすることが重要など）を得ていました。

グループミーティングを含む研修では、さらに9月30日にグループミーティングの1回目を行い、各自のワークシート（関連の情報、動画視聴での気づき等を整理）を報告後、1事例をとりあげ、グループで変革の方向性と実施計画を検討しました。2月のミーティングでは、その成果の報告や参考に実施した各自の実践報告を行う予定です。どのグループも、同じような状況に共感したり、大学の状況による違いからの発見があったり、活発にミーティングが実施され、2月の成果報告が楽しみです。

また、今年度は4つのテーマを設けましたが、テーマに該当しなかった課題の参加者もいるのではないかと考えられ、次年度は多様なテーマをもった方に参加してもらえらる方向で企画する予定です。

(レベルⅣ研修担当者：黒田久美子)

レベルⅤ研修「組織全体の次世代育成能力を強化するFD改革」

レベルⅤ研修は、異なる組織課題を持つ複数の大学間で相互に刺激し合いながら自組織の現状を分析し課題を俯瞰的に見つめ直すとともに、「次世代育成能力の強化」という観点から長期的な展望を持って課題の解決に結びつくFD改革案を新たに創り上げることを目的としています。研修期間は8月から2月までの約6か月間であり、すべてTeamsを使用したオンラインにより行います。オンデマンド動画視聴の後、2回のオンライングループ演習と成果報告会から構成されます。

この研修では、次世代の看護職育成に向けユニークな発想や斬新なアイデアを相互に指摘し合うとともに、自大学に取り入れられそうなことを積極的に見出し共有しながらグループ演習を進めていきます。このようなピアコンサルテーションと大学個々による検討を通して、研修終了時には、自組織の課題解決と次世代の看護職育成に必要な教員の能力開発に必要な「FD企画案」という成果を得られることを期待しています。

今年度は、21看護系大学、62名の教員の皆様よりご参加いただきました。また、オンデマンド動画視聴のみへの参加者は303名でした。

(レベルⅤ研修担当者：中山登志子)

看護管理者向け課題解決型研修

2021年度に当センターの研修事業は、従来の形態を抜本的に見直し、看護系大学教員向けと、看護管理者および中堅看護者向けに区分した「課題解決型研修」として集約しました。本研修は、解決困難な組織課題を有する受講生が5人ほどのグループを形成し、およそ2か月に1回、計5回のグループミーティングを行うプログラムです。研修では利害関係のない受講生同士が心理的安全性の保たれたオンライン環境のもと、自身の組織課題について発表し、グループメンバーから共感や助言、フィードバックを得ながら組織課題を多角的・俯瞰的に捉え直し、自明となっている自組織の状況や複雑な組織課題の構造化と言語化を深める相互刺激・相互支援である『ピア・コンサルテーション』を行います。従来の知識提供型研修ではなく、受講生が主体となった「出力型研修」としてリニューアルし4年目となります。今年度は、当センターでの新たなプログラム開講に伴い、研修対象を看護管理者に限定し28人にご参加いただいております。



これまでの大学教員向けの課題解決型研修の内容は、今年度より新たに開講された「看護系大学教員向けレベル別FD研修プログラム」のレベルⅣ研修（次世代育成能力強化に向けたテーマ別教授能力開発）、レベルⅤ（組織全体の次世代育成能力を強化するFD改革）にて、引き継がれています。

今回、これまでの課題解決型研修の評価を行いましたので簡単にお伝えします。

看護系大学教員の研修受講生で研究協力の得られた方を対象に「ピア・コンサルテーション」の効果を明らかにしました。ピア・コンサルテーション導入により、グループメンバーから課題解決に取り組む姿勢や心構えを学んだり、課題を一緒に考えることで自組織や自己を振り返る機会を得ていました。また、心理的安全性の保たれたグループワークによる助言や共感等のメンバーシップによって、モチベーションや自己肯定感を高めることにつながっていました。

看護管理者および中堅看護者向けの研修において、課題解決型オンライン研修の職位別効果を研修前後のコンピテンシーの変化を分析しました。その結果、職位にかかわらず「正確な自己評価」と「概念化」を促進する一定の効果がありました。研修は、看護部全体を視野におく上位管理者では「思考力」に、スタッフにより近い副部長相当では、「チーム運営力」に、病棟運営を任される看護師長では総合的な能力の開発に資する効果が示されました。

第28回日本看護管理学会学術集会
演題番号:O9-2

**看護管理者を対象とした課題解決型
オンライン研修の職位別効果
～研修前後のコンピテンシーの変化より～**

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
東京歯科大学市川総合病院
高木夏恵

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
飯野理恵、池崎遼江、和田淑子、星田久美子、中山登志子、廣嶋朋子、島田陽子

第44回日本看護科学学会学術集会
演題番号:O49-01

**看護系大学教員を対象とした課題解決型研修における
ピア・コンサルテーション導入の効果**

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
飯野理恵¹⁾ 高木夏恵²⁾ 池崎遼江³⁾ 和田淑子⁴⁾ 星田久美子⁵⁾
斉藤しのぶ⁶⁾ 鎌田君⁷⁾ 特井あや⁸⁾ 廣嶋朋子⁹⁾ 中山登志子¹⁰⁾

1) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
2) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
3) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
4) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
5) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
6) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
7) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
8) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
9) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
10) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

(2024年8月の第28回日本看護管理学会学術集会、2024年12月開催の第44回日本看護科学学会学術集会にて発表)

看護学教育研究共同利用拠点
発行 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 U R L : <https://www.n.chiba-u.jp/center/>
TEL : 043-226-2464・2377 総務第三係(センター研修担当) E-mail : kango-cqi@chiba-u.jp